

2007.4.5

領域4世話人 山口真澄

## 領域4,6,8低温合同インフォーマルミーティング報告

開催日時 2008. 3.19 (月) 17:30-18:30

会場 鹿児島大学

### 議事

#### 報告事項

- 1 臨時領域委員会 報告者 (代理) 領域6世話人 松原明氏  
2007年次大会における領域レビューセッションについて  
若手奨励賞について
- 2 IUPAPC5委員会 報告者 C5委員 理研河野公俊氏
  1. IUPAP C5委員会の位置付けとメンバー紹介
  2. 低温関連国際会議予定  
LT25 2008 Amsterdam,  
LT26 2011 北京 (未定)  
QFS 2007 Kazan, Russia  
Ultracold NannoMatter 1-16 Febraury 2008, Tronto
  3. IUPAP Young Investigator Prize の創設についてほぼ確定ということで (案) についての説明  
LT 毎に表彰 1-3名  
受賞資格 PhD から 8年 但し研究を離れていた期間を除く

#### 意見交換

司会者より、物理学会で昨年(2006年)の後半に話題として出ていた領域再編や領域の分け方等に関しての意見を述べて欲しい、との提案があった。現時点では領域再編という動きは下火になっているが、折角の機会なので、個人的でもよいので意見を述べて欲しい、とのことであった。

それに対して、以下のような意見が述べられた。

1. 領域6の超伝導分野から世話人が出ていないことにより、プログラム編成に支障をきたしていることについて。  
・現在は超伝導分野の関係者がボランティアでプログラム編成を手伝っている。

・世話人を一人増やせないか。

# この件に関しては、領域 6 の超低温・超伝導の世話人である松原氏が、物理学会に質問をしてみる事となった。

(領域代表の会議で提案してみるように進言され、超伝導分野の中から候補者をたてていただき、領域代表にお願いすることとした、と松原氏より 報告を受けている)

2. 世話人の数、プログラム編成会議の出席を東京近郊者からに限定していることについて。

・プログラム会議の参加者や世話人を東京近郊で選ぶのは東京近郊の意見のみが反映されるようになるので好ましくない。

・物理学会の会計は非常に厳しくなっており止むを得ない事情もある。

3. 領域 6 と領域 4 の間で関連セッションの時間的重複が有り、発表者が会場間をあわてて移動しなければならなかったり、聴講者が聞きにいけないなどの問題がある。

・領域 4 内でパラレルセッションが 2 つあり、シンポジウム、部屋の大きさ等を考慮して領域内での内容の重複を避けてプログラムを作っているが、紙ベースでやり取りするような現在のシステムで他領域との重複まで考慮するのは難しい。もう少しシステムティックなプログラム編成方法を考える必要がある。

・領域 6 と領域 4 の超伝導関連のセッションをすべて合同セッションにしてはどうか。

# この件に関しては、領域 4 と領域 6 で少し意見交換をしてみてはどうか、ということになった。

4. 領域の分け方の問題を議論するには現時点での情報が欲しい。例えば現在の領域に分けた時と、現時点での領域ごとの発表件数の一覧などの情報がないと議論しにくい。

# この件に関しては、領域 6 の超低温・超伝導の世話人である松原氏が、物理学会に質問をしてみる事となった。

以上